

【専門分野Ⅱ】

科目名		担当者	実務経験
成人看護学概論		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】			
人間の一生における成人の特徴と健康上の課題を年齢による変化とライフスタイルの視点から教授する。			
【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のライフサイクルの中の成人期を理解する。 2. 成人の身体的・精神的・社会的特徴と健康上の課題を理解する。 3. 成人の生活を家族・仕事等の視点から総合的に理解する。 4. 成人への看護を行うために必要な知識・理論を理解する。 			
【授業内容】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のライフサイクルの中の成人期 2. 青年期の特徴と健康上の課題 3. 壮年・中年期の特徴と健康上の課題 4. 大人と生活 ～家族～ 5. 大人と生活 ～仕事～ 6. 人生の意味 7. 病人の理解 8. 成人への看護アプローチの基本 <ol style="list-style-type: none"> 1) ストレスと危機 2) 痛みと看護 3) セルフケア 4) 行動と動機 5) 成人の学習と指導技術 6) 自己効力感 			
【教授方法】 講義 グループワーク			
【使用テキストと参考文献】			
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 医学書院 佐藤栄子 中範囲理論入門 日総研			
【評価方法】 筆記試験 参加度			

科目名 成人保健		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間1/単位/15回	講義・演習	
【概要】 成人期にある対象が主体的に健康を保つ重要性和、成人の健康生活を支援する看護のあり方を理解する。			
【目標】 1. 成人の生活と取り巻く環境を理解する。 2. 各統計から、成人期の健康状態を理解する。 3. 成人の健康を保つための保健医療福祉システムを理解する。 4. 生活習慣が成人期の健康に及ぼす影響と発症を予防する必要性を理解する。 5. 成人の主体的な健康を促進するヘルスプロモーションを理解する。 6. 職業・ストレスが成人の健康に及ぼす影響を理解する。 7. 成人期にある対象が主体的に健康を保つための重要性について考える。			
【授業内容】 1. 成人を取り巻く環境と生活 2. 成人保健の動向 3. 成人期を取り巻く保健医療福祉システム 4. 生活習慣が健康に及ぼす影響と発症予防 5. 成人の主体的な健康を促進するヘルスプロモーション 6. 職業・ストレスが成人期の健康に及ぼす影響 7. 成人期の対象が主体的に健康を保つための支援			
【教授方法】 講義・グループワーク・学習発表会			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会			
【評価方法】 筆記試験 レポート 参加度			
【備考】 電子辞書 成人看護学概論・成人保健の講義資料を持参するとよい。			

科目名 成人看護援助論 I		担当者	実務経験
		専任教師 長岡赤十字病院 医師・ 認定看護師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前・後期	60 時間/2 単位/ 30 回	講義・演習	
【概要】 高度な医療、治療処置が日常生活に与える影響及び対象の看護を理解する。手術療法・化学療法・放射線療法など悪性新生物の重要な治療法と看護について学ぶ。 I-1【手術療法と看護】 手術治療を受ける対象の看護に必要な手術療法の知識と看護について学ぶ。 I-2【医療機器と看護、人工臓器と看護】 高度医療で使用される医療機器や人工臓器を持つ対象について理解し、それぞれの看護について学ぶ。 I-3【放射線療法と看護】 放射線治療を受ける対象の看護に必要な放射線療法の知識と看護について学ぶ。 I-4【化学療法と看護】 化学療法を受ける患者に必要な知識と看護の実践について学ぶ。また、がん患者の療養生活の質の維持向上を目指すための看護について学ぶ。 I-5【終末期の看護】 対象が平和な死が迎えられよう支援するために必要な知識を学ぶ。			
【目標】 I-1【手術療法と看護】 1. 手術療法が日常生活に与える影響及び対象への看護を理解する。 I-2【医療機器と看護、人工臓器と看護】 1. 高度医療で使用される医療機器の種類、原理取り扱い上の留意事項の理解と医療用機器を使用する患者の持つ問題について理解する。 2. 人工臓器をもつ対象を統合的に理解し看護が展開できる基礎的能力を養う。 I-3【放射線療法と看護】 1. 放射線の作用について理解し、放射線治療と放射線有害事象について理解する。 2. 放射線療法が日常生活に与える影響及び対象への看護を理解する。 I-4【化学療法と看護】 1. がん治療における化学療法の目的・適応を理解する。 2. 化学療法が日常生活に与える影響及び対象への看護を理解する。			

I－5【終末期の看護】

1. 終末期の対象の特徴を理解する。
2. 終末期の対象の課題と看護を理解する。

【授業内容】

I－1【手術療法と看護】

1. 手術療法とは
2. 麻酔と麻酔時の看護
3. 手術の侵襲に対する生体の反応
4. 周手術期看護とは
5. 手術前・中・後の看護(対象の理解を含む)
6. 術後合併症の予防
7. 早期回復への援助

I－2【医療機器と看護、人工臓器と看護】

1. ME 機器とは
2. ME 機器取り扱い上の留意点
3. 代表的 ME 機器の原理・機能
4. ME 機器を使用する対象の理解と看護
5. 人工臓器とは
6. 人工臓器をもつ対象の理解と看護

I－3【放射線療法と看護】

1. 放射線の医学への応用
2. 放射線治療とは
3. 放射線防護
4. 放射線療法を受ける対象の理解と看護

I－4【化学療法と看護】

1. がん化学療法とは
2. がん化学療法の薬物有害反応
3. がん化学療法を受ける対象の理解と看護

I－5【終末期の看護】

1. 終末期とは
2. 終末期の対象の身体的・精神的・社会的特徴
3. 終末期の対象の課題
4. 終末期の対象への看護
5. 終末期の看護を実践するために必要な理論・知識
 - 1)スピリチュアル・ペイン 等

【教授方法】

一斉講義 グループワーク 演習 施設・設備の見学(手術室)

【使用テキストと参考文献】**I-1【手術療法と看護】**

系統看護学講座 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
周手術期看護1 外来／病棟における術前看護 医歯薬出版株式会社
周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版株式会社

I-2【医療機器と看護、人工臓器と看護】

系統看護学講座 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院

I-3【放射線療法と看護】

系統看護学講座 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院

I-4【化学療法と看護】

国立がん研究センターに学ぶ がん薬物療法看護スキルアップ 南江堂
New 看護過程に沿った対症看護 学研

I-5【終末期の看護】

系統看護学講座 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院
経過別看護 メヂカルフレンド

【評価方法】

客観テスト(小テスト・定期テスト) レポート
各担当教員のテストは 100 点満点とし、それぞれ 60 点以上を持って単位認定とする。

【備考】

認定看護師(手術看護、救急看護、がん化学療法、がん性疼痛)の講義を含む

科目名 成人看護援助論Ⅱ		担当者	実務経験 ○
		専任教師 長岡赤十字病院 理学療法士 作業療法士・認定看護師	
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期・後期	60 時間/2単位/30 回	講義・演習	
<p>【概要】</p> <p>身体のさまざまな機能障害とそれらが患者に及ぼす影響を理解し、既習の基本的な看護の考え方や基礎的知識・技術を統合しながら、機能障害に応じた看護について学ぶ。</p> <p>Ⅱ－1【運動障害と看護】</p> <p>主に整形外科領域の患者を取り上げ、運動障害のある患者の看護について学ぶ。また、障害を極力減らすと同時に、隠れた能力を引き出し発展させるための機能訓練・呼吸リハビリテーションの実際を学ぶ。</p> <p>Ⅱ－2【意識障害と看護】</p> <p>意識障害によっておこる生命の危機や、自ら苦痛や要求・意思を伝えることが困難である患者の看護について、また人としての尊厳を守り看護することを学ぶ。</p> <p>Ⅱ－3【呼吸障害と看護】</p> <p>呼吸障害によっておこる生命の危機、心身の苦痛・不安、日常生活行動への影響と看護について学ぶ。また、自己管理に向けて患者・家族への教育について学ぶ。</p> <p>Ⅱ－4【循環障害・出血と看護】</p> <p>主に心不全患者を取り上げ、循環障害による生命の危機、心身の苦痛・不安、日常生活行動への影響と看護、自己管理に向けて患者・家族への教育について学ぶ。また、出血傾向・出血時・ショックを取り上げ、患者の理解と基本的看護について学ぶ。</p> <p>Ⅱ－5【消化・排泄障害と看護】</p> <p>消化吸収・排泄障害と、それらに起因する主な症状を理解し、苦痛症状を緩和するための看護について学ぶ。</p> <p>Ⅱ－6【代謝障害と看護】</p> <p>主に糖尿病・脂質代謝異常の患者を取り上げ、代謝障害のある患者の看護について学ぶ。糖尿病のある患者の看護では、食事療法・運動療法・インシュリン療法など患者・家族への教育的アプローチについて学ぶ。</p>			
<p>【目標】</p> <p>Ⅱ－1【運動障害と看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動機能と、障害発生の要因について理解する。 2. 運動障害のある患者の看護について理解する。 3. 機能訓練や呼吸リハビリテーションについて理解する。 			

Ⅱ－2【意識障害と看護】

1. 意識障害の発生要因について理解する。
2. 意識障害がもたらす生命・生活への影響について理解する。
3. 意識障害のある患者の看護について理解する。

Ⅱ－3【呼吸障害と看護】

1. 呼吸機能と、障害発生の要因について理解する。
2. 呼吸障害がもたらす生命・生活への影響について理解する。
3. 呼吸障害に関連する主な症状について理解する。
4. 呼吸障害のある患者に行われる検査・治療処置について理解する。
5. 呼吸障害のある患者の看護について理解する。

Ⅱ－4【循環障害・出血と看護】

1. 循環機能と、障害発生の要因について理解する。
2. 循環障害がもたらす生命・生活への影響について理解する。
3. 循環障害に関連する主な症状について理解する。
4. 循環障害のある患者に行われる検査・治療処置について理解する。
5. 循環障害のある患者の看護について理解する。

Ⅱ－5【消化・排泄障害と看護】

1. 消化・排泄機能と、障害発生の要因について理解できる。
2. 消化・排泄障害がもたらす生命・生活への影響について理解する。
 1. 消化・排泄障害に関連する主な症状について理解する。
 2. 消化・排泄障害のある患者の看護について理解する。

Ⅱ－6【代謝障害と看護】

1. 代謝障害のある患者の看護について理解する。
2. 糖尿病の患者・家族への教育的アプローチについて理解する。

【授業内容】

Ⅱ－1【運動障害と看護】

1. 運動障害・移動機能障害・作業機能障害
2. 骨折時の患者の理解と看護
3. リハビリテーションの定義・脳血管疾患患者へのアプローチ 杖・歩行器による歩行
4. COPD 患者の呼吸リハビリテーション

Ⅱ－2【意識障害と看護】

1. 意識障害の定義・原因とメカニズム・分類・評価 遷延性意識障害と脳死
2. 意識障害のある患者の理解・検査・治療
3. 意識障害のある患者のニーズと看護

II-3【呼吸障害と看護】

1. 呼吸障害の定義・原因とメカニズム
2. 呼吸障害のある患者の理解・検査・治療
3. 呼吸障害のある患者のニーズと看護

II-4【循環障害・出血と看護】

1. 循環障害の定義・原因とメカニズム
2. 循環障害(心不全)のある患者の理解・検査・治療
3. 循環障害のある患者のニーズと看護
4. 出血傾向の定義・原因・メカニズム・検査・治療・看護
5. 出血の定義・原因・治療・看護
6. ショックの定義・重症度と症状・検査・治療・基本的看護

II-5【消化・排泄障害と看護】

1. 消化吸収過程とその障害
2. 消化吸収障害のある患者の理解・状態観察
3. 消化吸収障害のある患者のニーズと看護
4. 排泄障害のある患者の理解・状態観察
5. 排泄障害のある患者のニーズと看護

II-6【代謝障害と看護】

1. 代謝障害(糖尿病・脂質代謝異常)のある患者の理解
2. 代謝障害のある患者の看護

【教授方法】

一斉講義 グループワーク 発表

【使用テキストと参考文献】

II-1【運動障害と看護】

系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学(10) 運動器 医学書院
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 アドバンス 医学書院
写真でわかる整形外科看護 アドバンス インターメディカ

II-2【意識障害と看護】

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学(7) 脳・神経 医学書院
New 看護過程に沿った対症看護 学研

II-3【呼吸障害と看護】

系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学(2) 呼吸器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院
New 看護過程に沿った対症看護 学研

Ⅱ－４【循環障害・出血と看護】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(3) 循環器 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(4) 血液・造血器 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院
New 看護過程に沿った対症看護 学研

Ⅱ－５【消化・排泄障害と看護】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院
New 看護過程に沿った対症看護 学研

Ⅱ－６【代謝障害と看護】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(6) 内分泌・代謝 医学書院

【評価方法】

客観テスト(小テスト・定期テスト) グループワーク参加度
各テストは100点満点とし、それぞれ60点以上を持って単位認定とする。

【備考】

講師名は科目別講師一覧表を参照

科目名 老年看護学概論		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を講義・演習で学び、生活している老年者の特徴を総合的に理解する。			
【目標】 1. 老年看護の意義を理解する。 2. 老年期にある人の身体的・精神的・社会的側面を知り、老年者のライフステージを理解する。 3. 老年看護の機能と役割について理解する。			
【授業内容】 1. 老化・加齢とは (1)生活史と老い (2)老いの価値 2. 加齢に伴う変化による、老年者の身体的・精神的・社会的特徴 3. 老年期とは (1)老年期の位置づけ(2) 人口学的指標・健康指標からの老年期 (3)生活の視点からの老年期の理解 4. 多様な老年者 (健康レベル 価値観 生活習慣・生活様式など) 5. 高齢社会と看護の役割(1)高齢者の生活(2)老年者体験(3)老年看護の機能と役割 6. 老年看護学の基本的な考え方、目標・原則			
【教授方法】 講義・疑似体験・グループワーク			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論			
【評価方法】 出席・参加度・レポート・終講時筆記試験			
【備考】			

科目名 老年保健		担当者	実務経験
		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	15時間/1単位/7回	講義・演習	
【概要】 <p>高齢者に対する保健の動向を理解すると共に、高齢者が健康に生活するための看護の役割を理解する。</p>			
【目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢社会における高齢者の保健の意義について理解できる。 2. 高齢者の保健活動のあり方について理解できる。 3. 高齢者に対する保健施策の動向を理解できる。 4. 高齢者に対する保健医療・福祉制度の概要が理解できる。 			
【授業内容】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢化する社会状況と保健施策 2. 高齢者にとっての健康 3. 高齢者の健康の特徴 4. 高齢者に対する保健の動向 5. 高齢者に対する保健医療・福祉制度 6. 高齢者に対する保健事業と看護の役割 			
【教授方法】 <p>講義 グループワーク</p>			
【使用テキストと参考文献】 <p>国民福祉の動向 厚生統計協会 高齢社会白書 内閣府 医療福祉 総合ガイドブック 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p>			
【評価方法】 <p>出席 ・ 筆記試験</p>			
【備考】			

科目名 老年看護援助論		担当者	実務経験
		専任教師 長岡赤十字病院 医師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期・後期	60時間/2単位/30回	講義・演習	
【概要】 【老年看護援助論1】 老年者の健康上の諸問題、老年者特有の症状等、老年看護に必要な知識・技術等について教授する。 【老年看護援助論2】 人間の死を考える演習・スキンケア 【老年看護援助論3】 老化について、医学的側面から教授する。			
【目標】 【老年看護援助論1】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢・健康障害による老年者の身体的・精神的変化と日常生活への影響と看護を理解する。 2. 老年患者の特徴と、健康レベルに合わせた看護を理解する。 3. 健康逸脱状況にある老年者と、その看護を理解する。 4. 老年者とその家族を理解し、療養環境の整備について理解する。 【老年看護援助論2】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人生の最終段階にある老年者と死について理解する。 2. 人間の生と死について考える。 3. スキンケアの方法を理解する。 【老年看護援助論3】老年医学 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学的側面から見た老化と、老年者に起こりやすい疾患・その治療を理解する。 			
【授業内容】 【老年看護援助論1】39時間 <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年者に多い疾患 2. 老化と脱水 3. 老年者の日常生活の援助 4. 老年患者の経過別看護 5. 認知症の老年者の看護 6. フレイルとサルコペニア 			

<p>【老年看護援助論2】15時間</p> <p>1. 生と死を考える演習</p> <p>2. スキンケア</p> <p>【老年看護援助論3】老年医学 6時間</p> <p>老年医学</p>
<p>【教授方法】</p> <p>講義・グループワーク・DVD 視聴・技術演習</p>
<p>【使用テキストと参考文献】</p> <p>【老年看護援助論1】</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院</p> <p>【老年看護援助論2】</p> <p>開講前に提示</p> <p>【老年看護援助論3】老年医学</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 講義時資料の提示</p>
<p>【評価方法】</p> <p>援助論1 ー 筆記試験・参加度・課題レポート</p> <p>援助論2 ー 出席・参加度・レポート</p> <p>援助論3 ー 筆記試験</p>
<p>【備考】</p> <p>講師名は科目別講師一覧表を参照</p>

科目名 小児看護学概論		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 ライフサイクルにおける小児期の特徴を理解し、小児看護の機能と看護の役割について学習する。			
【目標】 1. ライフサイクルにおける小児期の特徴を理解する 2. 小児の成長発達を理解する。 3. 小児が生活している社会や環境との関係を理解する。 4. 小児看護の機能と役割について理解する。			
【授業内容】 I. 子どもとは 1. ライフサイクルにおける子ども 2. 子どもの特性 3. 子どもの成長と発達 4. 子どもの栄養 5. 子どもと遊び II. 子どもと家族を取り巻く環境 1. 子どもにとっての家族(家庭) 1) 家族関係とその現状 2. 子どもを取り巻く社会 1) 子どものおかれている社会状況 2) 子どもを取り巻く社会環境 III. 小児看護の目ざすところ 1. 子どもの権利と倫理 2. 小児看護の対象と特徴 3. 小児看護の目標 4. 小児医療・小児看護の変遷 5. 小児看護の今後の課題			
【教授方法】 一斉講義			

【使用テキストと参考文献】

系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論

医学書院

【評価方法】

客観テスト

【備考】

科目名		担当者	実務経験
小児保健		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	15時間/1単位/ 7回	講義・演習	
【概要】			
小児保健の動向を理解するとともに、小児の健康増進と疾病予防のための看護の役割を理解する。			
【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健の動向を知り、小児保健の意義について理解する。 2. 母子保健の法律と政策について理解する。 3. 健康な小児の日常生活と看護について理解する。 			
【授業内容】			
1. 小児保健の動向 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの健康と小児看護の目標 2) 小児の保健統計 3) 小児保健の意義 4) 小児看護の場 			
2. 健康を保持・増進するための活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母子保健の目的と動向 2) 母子保健 3) 予防接種 4) 学校保健 5) 事故防止と安全教育 6) 虐待 			
3. 小児の健康生活と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳児期の健康な生活と養護 2) 幼児期の健康な生活と基本的な生活習慣 3) 学童期の健康な生活と健康教育 4) 青年前期（思春期）の健康な生活と生活指導 5) 気になる子どもの問題行動とその支援 			
【教授方法】			
一斉講義 グループ学習			

【使用テキストと参考文献】

系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論
医学書院
国民衛生の動向 厚生統計協会(1回、2回目の講義時持参)

【評価方法】

客観テスト:70%

課題レポート1:20% 課題レポート2:10% 課題レポートのテーマは初回講義時に提示

【備考】

科目名 小児看護援助論		担当者	実務経験
		専任教師 長岡赤十字病院 医師 ・ 認定看護師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期・後期	45時間/2単位/ 22回	講義・演習	
【概要】 小児の疾患について理解し、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、適切な看護ができる知識、技術を学ぶ			
【目標】 1. 小児疾患と病態、検査・治療を学ぶ。 2. 健康障害や入院が小児と家族に及ぼす影響を学ぶ。 3. 子どもにみられる症状と看護について学ぶ 4. 子どもと家族に起こりやすい・直面しやすい状況と看護について学ぶ 5. 基本となる小児看護技術について学び、小児看護のあり方を考える。			
【授業内容】 小児看護援助論1:健康障害と看護 Ⅰ. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2. 子どもの健康問題と看護 Ⅱ. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 1. 入院における子どもと家族への影響 2. 外来における看護 Ⅲ. 子どもにおける疾病の経過と看護 1. 慢性期 2. 急性期、周手術期 3. 災害時 Ⅳ. 子どもと家族に起こりやすい・直面しやすい状況と看護 1. 治療処置、検査を受ける子どもと家族 2. 痛みのある子どもと家族 3. 活動制限(安静と体動制限)を必要とする子どもと家族 4. 感染防止の必要がある子どもと家族 5. 障害のある子どもと家族手			

<p>V. 基本となる小児看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どものアセスメント、プレパレーション 2. 事例を通して小児看護のあり方について考える <p>小児看護援助論2:低出生体重児の看護</p> <p>小児看護援助論3:小児疾患の理解、検査・治療</p>
<p>【教授方法】</p> <p>一斉講義</p>
<p>【使用テキストと参考文献】</p> <p>小児看護援助論1:系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院</p> <p>写真でわかる小児看護技術 インターメディカ</p> <p>小児看護援助論2:系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院</p> <p>小児看護援助論3:系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院</p>
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験</p> <p>小児看護援助論1・2 100点 小児看護援助論3 100点</p> <p>それぞれ60点以上で単位認定</p>
<p>【備考】</p>

科目名 母性看護学概論		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	15時間/1単位/7回	講義・演習	
【概要】 母性看護を实践するうえで必要な看護の対象と母性の基盤となる概念を理解し、母性看護の課題と役割を学ぶ。			
【目標】 1. 母性看護の対象や看護の特徴から母性の概念を理解する。 2. 母性看護に必要な基本となる概念を理解する 3. 生殖器の形態・機能、女性における月経周期・妊娠について理解する。 4. 性分化のしくみとおもな性分化疾患について理解する。			
【授業内容】 1. 母性看護の基本となる概念 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) 性意識 5) リプロダクティブヘルス/ライツ 2. 母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ①生殖器の形態と機能 ②月経周期 2) 妊娠と胎児の性分化			
【教授方法】 一斉講義 DVD 視聴			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学1) 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学(人体の構造と機能1) 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器(成人看護学9) 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 増田敦子 サイオ出版			
【評価方法】 筆記試験			
【備考】			

科目名 母性保健		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	15時間/1単位/7回	講義・演習	
【概要】 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解すると共に、対象のライフステージ各期における特徴と健康問題に対する母性看護の役割を学ぶ。			
【目標】 1. 統計的指標の変遷から母性看護に関する組織や法律、母子保健施策の観点から母性看護の現状を理解する。 2. 思春期・成熟期・更年期・老年期それぞれの身体的特徴、心理・社会的特徴と健康上の問題と看護を理解する。			
【授業内容】 1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母子保健統計からみた動向 2) 母性看護に関する法律と母子保健施策 2. 女性のライフステージ各期における看護 1) 思春期女性の健康と看護 ① 月経異常、喫煙 ② 人工妊娠中絶、性感染症 2) 成熟期女性の健康と看護 ① DV、性暴力 ② 子宮筋腫 3) 更年期女性の健康と看護 ① 不定愁訴・更年期障害 ② 膣炎、尿失禁、骨粗しょう症 ③ 乳がん、子宮がん、卵巣がん 4) 老年期女性の健康と看護			
【教授方法】 一斉講義 DVD 視聴			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学1) 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 国民福祉の動向 厚生統計協会			
【評価方法】 筆記試験			
【備考】			

科目名 母性看護援助論		担当者	実務経験
		専任教師 長岡赤十字病院 医師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前、後期	60 時間/2単位/30 回	講義・演習	
【概要】 周産期における正常と異常を理解し、各期にある対象の身体的特性と心理・社会的特性をふまえた看護を学ぶ。			
【目標】 1. 周産期における対象の身体的・心理的・社会的特性について理解する。 2. 正常な妊娠・分娩・産褥経過を理解する。 3. 妊娠期にある妊婦と家族に必要な看護を理解する。 4. 分娩期にある産婦と家族に必要な看護を理解する。 5. 産褥期にある産婦と子、その家族に必要な看護を理解する。 6. 新生児の身体的特徴を理解する。 6. 新生児の子宮外生活適応過程について必要な看護を理解する。 7. 子どもを産むことの意味決定に伴う遺伝や不妊の問題と課題について理解する。 8. 妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期の異常とその看護について理解する。 9. 母性看護に必要な看護技術を習得する。			
【授業内容】 1. 妊娠期 1) 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性 2) 妊婦、胎児と家族のアセスメントと看護 2. 分娩期 1) 分娩の要素と経過 2) 産婦、胎児と家族のアセスメントと看護 3) 分娩期の看護 3. 新生児期 1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメントと看護 4. 産褥期 1) 産褥経過 2) 産婦と家族のアセスメント看護 3) 育児支援体制と職場復帰			

<p>5. 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常とその看護</p> <p>1) 妊娠の異常と看護</p> <p>2) 分娩の異常と看護</p> <p>3) 新生児の異常と看護</p> <p>4) 産褥の異常と看護</p> <p>5) 精神障害合併妊婦と家族の看護</p> <p>6. 遺伝相談と不妊</p> <p>1) 出生前診断と不妊診断</p> <p>7. 母性看護技術演習</p>
<p>【教授方法】</p> <p>一斉講義 DVD 視聴 演習</p>
<p>【使用テキストと参考文献】</p> <p>母性看護援助論 I</p> <p> 系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学各論 母性看護学〔2〕 医学書院</p> <p>母性看護援助論 II</p> <p> 系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学各論 母性看護学〔2〕 医学書院</p> <p> 写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ</p>
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験</p> <p> 講義担当者がそれぞれで試験を実施。それぞれ 60 点以上を持って単位認定とする。</p>
<p>【備考】</p>

科目名 精神看護学概論		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	15時間/1単位/7回	講義・演習	
<p>【概要】</p> <p>看護における精神看護の意義、目的、役割機能及び対象を理解し、精神の危機的状況や精神を障害された人とその家族への援助を考えるのに必要な基礎的知識を学ぶ。また、人間の性にも注目し、心の発達や健康障害に大きく影響することを理解し、看護の役割について学ぶ。</p>			
<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の精神医療の現状から、精神看護の目的・対象・役割を理解する。 2. 人間の心の構造と機能を理解する。 3. 人間の自我の発達を理解する。 4. 心の健康について考え、健康障害を引き起こす要因がわかる。 5. 心の健康を保つための精神保健福祉施策と看護の方法を理解する。 			
<p>【授業内容】</p> <p>I. 現代社会と精神看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉の変遷 2. 日本の精神医療の現状と課題 3. 精神看護の対象と看護の目的 <p>II. 人間の心の構造と機能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の構造 2. 心の諸活動(自我・知・情・意) 3. 自我の防衛機制 <p>III. 人間の心の発達</p> <p>フロイトの精神性的発達理論</p> <p>IV. 心の健康</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害のとらえ方 2. 心の健康とは 2. ストレスと危機 <p>V. 心の健康と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康を保つための精神保健福祉施策 2. リエゾン精神看護 3. 臨床における心の健康と看護 			

【教授方法】

一斉講義 グループワーク

【使用テキストと参考文献】

国民衛生の動向 厚生統計協会

新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社

新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【評価方法】

筆記試験

【備考】

「精神保健」「成人看護学概論」「成人保健」など既習の知識を活用しながらすすめる。

科目名		担当者	実務経験
精神保健		長岡赤十字病院臨床心理士	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】			
人間の社会生活における心の健康と危機状況とその要因を理解し、健全な心の発達への援助を考えるために必要な基礎的知識を学ぶ。			
【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける心の発達と精神保健上の問題を理解する。 2. 様々な生活の場における精神保健上の問題とその背景について理解する。 3. 様々な危機状況において生じる心の健康問題について理解する。 4. 精神保健活動の制度を理解し、地域精神保健福祉活動の実際と課題について知る。 			
【授業内容】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心の発達と精神保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長各期の発達(胎児期・乳児期・幼児期・学童期・青年期・壮年期・老年期) 2) 各期における危機的状況と精神保健 2. 環境と心の働き <ol style="list-style-type: none"> 1) 暮らしの場(家庭)と精神保健 2) 教育の場における精神保健 3) 職場における精神保健 4) 地域社会における精神保健 3. 危機状況と心の働き <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療現場における危機状況と精神保健 2) 特殊な状況における危機状況と精神保健 4. 精神保健福祉制度と地域精神保健活動の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) わが国の精神保健福祉制度 2) 地域精神保健活動の実際と課題 			
【教授方法】			
一斉講義 グループワーク			
【使用テキストと参考文献】			
新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社			
【評価方法】			
筆記試験			
【備考】			

科目名 精神看護援助論Ⅰ		担当者	実務経験
		長岡赤十字病院 医師 県立精神医療センター 看護師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
<p>【概要】精神障害をもつ患者と、健康障害や入院が患者に及ぼす影響を理解するとともに、看護の役割を認識し、適切な看護を行うための能力を養う。</p> <p>I-1【精神科疾患・精神療法】 精神障害の代表的な疾患について、その病態・診断・治療について理解する。</p> <p>I-2【精神障害と看護】 精神活動に障害のある患者を理解するための方法と、患者とよい関係を成立・発展させ、患者が安定した生活を送るための看護について学ぶ。</p>			
<p>【目標】</p> <p>I-1【精神科疾患・精神療法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な精神疾患の病態・症状・診断について理解する。 2. 精神疾患における治療法(薬物療法・精神療法・社会療法)について理解する。 <p>I-2【精神障害と看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害のある患者を理解するための方法がわかる。 2. 主な精神症状に対する看護の方法がわかる。 3. 主な精神疾患を持つ患者の看護について理解する。 			
<p>【授業内容】</p> <p>I-1【精神科疾患・精神療法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科総論 2. 以下の疾患の病態・症状・診断 統合失調症 躁鬱病 心因性精神障害 外因性精神障害 児童・思春期の精神障害 3. 精神疾患の治療 (精神療法 薬物療法 社会療法) <p>I-2【精神障害と看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害のある患者とその家族の理解 2. 患者への接近の方法 3. 精神症状に対する看護 幻覚・妄想状態 抑うつ・不安状態 躁状態 4. 主な精神疾患の看護 統合失調症 感情障害 児童・思春期の精神疾患 PTSD 			

【教授方法】 一斉講義

【使用テキストと参考文献】

I-1

新体系看護学全書 35 巻 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

I-2

新体系看護学全書 35 巻 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【評価方法】

筆記試験 レポート

I-1、I-2それぞれ100点の試験を実施。それぞれ60点以上を持って単位認定とする

【備考】

科目名 精神看護援助論Ⅱ		担当者	実務経験 ○
		専任教師 長岡赤十字病院臨床心理士 非常勤講師	
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前～後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 基礎分野の人間関係論を基盤とし、患者-看護者関係の成立・発展のための方法と、援助の過程を学ぶ。あわせて、対人相互作用の過程のなかで自己洞察し得る能力を養う。			
【目標】 Ⅱ-1【患者-看護者関係の成立・発展】 1. 患者-看護者関係の成立と発展のプロセスについて理解する。 2. 看護場面の再構成を通してコミュニケーションの評価方法を理解する。 Ⅱ-2【カウンセリングの基礎】 1. 患者-看護者関係の成立と発展のための基本的態度について理解する。 Ⅱ-3【人間関係トレーニング】 1. 他者との関わり方に気づき、他者との関係のなかで自己の考え方や行動を振り返る。			
【授業内容】 Ⅱ-1【患者-看護者関係の成立・発展】 1. 患者-看護者関係の成立・発展のプロセス 2. コミュニケーション技術の評価 1) 看護場面の再構成の方法 2) ロールプレイング Ⅱ-2【カウンセリングの基礎】 1. 患者-看護者関係の成立・発展のための方法 1) 基本的態度 2) 医療現場におけるアプローチの方法 Ⅱ-3【人間関係トレーニング】 1. 演習（合宿）			
【教授方法】 講義 グループワーク 演習			
【使用テキストと参考文献】 看護にいかすカウンセリング 医学書院 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社			

【評価方法】

出席状況 グループワークへの参加度 レポート

【備考】

事前課題:基礎看護学実習Ⅱの体験をもとにプロセスレコードを作成する。

人間関係トレーニング: 2泊3日の合宿

科目名 成人看護学実習		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類	
2年次・後期 3年次	270時間/6単位	実習	
【概要】 人の一生からみた成人期の特徴を理解し、対象の健康上の課題を総合的にとらえ、看護を 実践するための能力を養う。保健医療福祉チームの一員として看護師の役割と責任を学ぶ とともに、看護実践を通し、看護を探究する。			
【目標】 1. 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 成人の生活・保健の動向を理解し、成人が自ら疾病予防、健康の保持・増進ができるよ う、保健指導できる能力を養う。 3. 疾病・障害を有する成人が自ら健康状態を回復・維持するよう(あるいは平和な死を迎え られるよう)その人に合わせた看護を実践する。 4. 看護を安全・安楽に実施する技術を身につける。 5. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割と責任を認識し、看護する。 6. 看護実践を通して看護とは何か考える。			
【授業内容】 1. 成人保健実習 (1 単位) 成人を対象とし、対象自身の認識する健康上の課題とその解決に向けての取り組み、客 観的データ(人間ドックの結果など)を統合し、対象の健康課題を推定した上で、成人期の 対象の主体的な健康行動を促進するための効果的な支援のあり方について考える。 2. 成人看護学実習 I (3 単位) 回復期、慢性期、終末期のいずれかの健康レベルにある成人期の対象を受持つ。成人 の特徴を理解し、健康レベルに合わせた看護を実践する。実践を通し、看護とは何か考え る。 3. 成人看護学実習 II (2 単位) 周手術期にある対象を受持つ。急性期に特徴的なリスクに焦点を当てながら、問題解決 に向けてタイムリーに看護を実践する。			
【教授方法】 実習			
【評価方法】 実習レポート 実習評価表 実習時間			
【備考】 実習要項、各実習棟オリエンテーション綴りを参照すること			

科目名 老年看護学実習		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
3年次	180時間/2単位/1回	実習	
【概要】 人生における最終の段階にある老年期の特徴を理解し、健康上の諸問題を総合的にとらえ、相手に合わせた個別性のある看護を実践する。また、4単位をまとめて臨地実習することにより、その期間を活用し、自分の行った看護により、相手の変化を体験する機会とすることが期待される。グループメンバーの受け持ちや間接体験からも、学びを深める。			
【目標】 1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、老年期における看護のあり方を考える。 2. 自己の看護観に基づいて、対象を総合的に理解し、必要な看護を実践する。 3. 看護技術を安全安楽に実施する。 4. 保健医療福祉チームの一員として、看護師の役割と責任を認識し看護する。			
【授業内容】 講義で学んだ老年者の特徴について、受持ち患者を通して理解する。また、自己の看護観を基に、対象を総合的に理解し、必要な看護を繰り返し実践し、相手の変化を体験する機会とする。その際、個別のカンファレンスやグループカンファレンスを活用し、老年者の理解を深める。また、チームカンファレンスを活用し、様々な意見をもとに、よりよい看護を追求する。 老年者の特徴を踏まえ、看護技術の実践を繰り返すことにより、相手にあった安全・安楽な技術を実施できる力を身につける。 それまで考えてきた看護を、実践を通して再考し、看護観を深める機会にする。 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割と責任を考える機会にする。退院調整を体験できる機会があると良い。			
【教授方法】 実習			
【使用テキストと参考文献】			
【評価方法】 評価表に基づき評価する。			
【備考】			

科目名 小児看護学実習		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
3年次・前後期	90時間/2単位	実習	
【概要】 人の一生からみた小児期の特徴と健康上の課題を理解し、子どもの理解を深め、子どもと家族に対する看護について考える。			
【目標】 1. 小児期の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。 2. 対象の成長発達、健康レベルに応じた看護を理解する。 3. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割と責任を認識し看護を行う。 4. 実習を通して、小児・小児看護について考える。			
【授業内容】 《保育園実習》2日 保育園における集団保育の実際を通して、健康な子どもの成長発達と日常生活を理解する。 《小児科実習(長岡赤十字病院)》 健康障害が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、成長発達・健康レベルに応じた援助を、体験を通して理解する。 《NICU実習(長岡赤十字病院)》1日 NICUの実際を通して、低出生体重児の看護について考える。			
【教授方法】 実習			
【使用テキストと参考文献】			
【評価方法】 保育園実習 20 点 小児科実習 70 点 NICU実習 10 点 合計 100 点			
【備考】			

科目名 母性看護学実習		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数	授業の種類	
3年次	90時間/2単位	実習	
【実習目的】 母性の特徴を理解し、周産期および新生児期に応じた看護を行う基礎的能力を養う。			
【目標】 1. 周産期にある母子とその家族の特徴をふまえ、母子とその家族に必要な看護がわかる。 2. 新生児の特徴と必要な看護がわかる。 3. 保健医療チームの一員として、看護者の役割と責任を認識し行動する。 4. 実習を通して、母性看護と生命の尊厳と自己の母性・父性(親性)について考える。			
【授業内容】 1. 妊娠期実習 産科外来とマタニティ・ファミリー・クラス(MFC)の実習を通して、妊婦の特徴と必要な看護がわかる。 2. 産褥期実習 受け持ち対象を通して、産褥期にある対象の正常な経過がわかる。また、褥婦とその家族の変化した役割と生活に適応し、自ら健康を回復・増進するための看護を、発達課題をふまえ理解する。 3. 新生児期実習 受け持ち対象を通して新生児の特徴と必要な看護がわかる。 4. 周産期にある様々な対象とのかかわりを通して、母性看護のあり方とともに生命の尊厳と自己の母性・父性(親性)について考える機会とする。			
【教授方法】 実習			
【使用テキストと参考文献】			
【評価方法】 評価表に基づき、評価する。			
【備考】			

科目名		担当者	実務経験
精神看護学実習		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
3年次	90時間/1単位	実習	
【概要】			
精神活動に障害のある対象の理解を深め、精神の健康回復への援助過程を通して看護者の役割を理解する。			
【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神活動に障害のある対象を理解する。 2. 対象の健康が回復・維持されるよう個別的な看護を展開する。 3. 対象との相互作用を通して自己洞察し、患者-看護者関係を成立・発展させるための方法を理解する。 4. 保健医療福祉チームの一員として、看護者に必要な基本的態度を認識し行動する。 5. 看護実践を通して、看護について考える。 			
【授業内容】			
精神障害をもつ対象を受け持ち、精神障害者の理解と対象に合わせた看護を展開する。対象との相互作用を通して、自己の考え方や行動について振り返る。また対象との関わりについてプロセスレコードの分析を行い、自己のかかわり方の傾向と課題を見い出しながら、対象との関係の成立・発展の方法を考える。			
【教授方法】			
実習			
【使用テキストと参考文献】			
【評価方法】			
出席時間 実習評価表にもとづき評価する			
【備考】			
新潟県立精神医療センターで実習を行う			